

■ きっかけ



造形美確認検査センターの写真アーカイブには、この種の建築が多くある。特にテーマを設定しているわけでもないが、この類のものが呼び寄せ合うように、フォルダに集まってくる。今のところ、彼らの総称はないので、フォルダも用意していない。このまま彼らのTAG付け、若しくは分類を怠れば、彼らが様々なカテゴリーに散乱し続けることになる。そうなってしまうと、後追いで整理する非常に面倒な労務を担うことになるわけだ。

そうならないよう、彼らを意識し始めたそのとき、様式として認めるか、あるいは新たなカテゴリーでフォルダを作成するか、判断することが非常に重要である。そこで、これから数回に分け、彼らの周囲にあるものを掘り下げながら、彼らが既に様式として開化しているのかも含め検証していきたい。

初めの簡単な考察

- ・彼らの中にはトタンが多く用いられていること
- ・同一テキスト・マテリアルではないこと
- ・更新を繰り返し、完成したいという意思を感じないこと
- ・絶妙なバランスのジャクスタポジション(並置)・コンポジション(構成)であること
- ・設計しているものとは思えないこと (偶発的なのか)
- ・新しくはないこと

■ 写真分類



ペンキ塗りスタディ



マークロスコの絵画



セメント瓦屋塗膜防水漬け、一部トタン埋め込み

造形美確認検査センターの写真アーカイブには、おもに3つのカテゴリがある。

- ・**ジャンル**カテゴリ：建築、アート、自然、人、オランダ、仕上げなどのフォルダ
- ・**マテリアル**カテゴリ：トタン、石、木、ペンキ、コンクリートなどのフォルダ
- ・**印象**カテゴリ：曖昧、大胆、ノスタルジック、草食系、かわいいなどのフォルダ

各々の写真データは、ジャンルカテゴリにメインデータを置き、そのほかのカテゴリには、ショートカットを作成して関係フォルダに振り分けている。1つのデータあたりのショートカット数は、無制限である。最近の写真管理法には、TAG 付け機能がありとても便利なのだが、それが普及する以前から分類作業をしていたことと、どんな PC 環境でも対応できる方法ということで、アナログ的分类方法(ショートカット複製法)を用いている。

例えば上の3枚の写真も複数のフォルダに分類している

左：「壁」「抽象画」、「ペンキ」、「曖昧」

中：「絵画」「マーク・ロスコ」「抽象画」、「曖昧」

右：「建築」「防水」「桜坂」、「セメント瓦」「トタン」、「曖昧」

一見、別々のフォルダ(ジャンル)にありそうなこれら3つの写真は、「曖昧」という印象カテゴリ(フォルダ)内では、共存している。曖昧の定義には色々あるのだろうが、これらの場合は、マテリアルの重なり部に**曖昧さ**を含んだエッジができていることから、そのように分類してある。

造形美確認検査センターで行っているこのような分類作業は、いわゆる因数分解のようなものだと考えている。ウィキペディアによると、“因数分解の目的はふつう、何らかのものを、「基本的な**構成要素**」に帰着させること“書いてある。つまり一見別々なカテゴリにあるものも、「曖昧」という構成要素が因数となることで、彼らがここに帰着するわけだ。造形美確認検査センターが、造形美の因数分解(分類)を行うのは、イメージを**共有・凝縮**したいとき、あるいは様々な要素を、組み合わせるイメージを**展開**したいときに、コンパクトに利用できるシステムを普段から構築し、ここぞ！というときにそれを活用するためである。

■ 因数分解



上:トタンを因数にした写真

トタンを因数にすると、これらの写真が集まってくる。他にもあるのだが、ここでは代表的なものをあげる。

次に**つぎはぎ**で因数分解すると、下の写真2枚がカッコでくれそうである。つまり下の2枚写真は、「トタン」の「つぎはぎ」という構成要素に帰着するわけだ。

上の2枚は、「トタン」ともう1つの構成要素はなんであろうか？さっと思いつくことは、上左はトタンを屋根に使用して、その施工精度はプロか、上級素人の仕事？その他には、実に**絶妙なコンポジション**であること。上右は、雨漏りがあったのだろうか、**応急的に**セメント瓦に、遮光性も兼ねた純白の防水塗料を塗って、どうせなら外壁もそのまま・・・というような**素人感**が表れている。建具はきっと木製ののだろうか、トタンを切って貼ったのがわかる。おそらく防水性向上が目的だと思われるが、個人的には、**超ハイセンスコーディネーター**を評価してしまう。

考察として、下2枚→上右→上左という順に施工精度が向上しているようにも見えるが、同時に上左→上右→下2枚という順に、**有り合せ度**が高くなっているという見方もできる。つまり施工精度を求めなくなると、素人感が向上し、更に材料の有り合わせ度も向上していくようである。

あり合わせ度 ≡ 素人感 ←→ 施工精度 〈上写真の建築の場合〉

■ コラージュとプリコラージュ



上左:ピカソのコラージュ 上中左:ピクチャーズのスカート 上中右:クルト・シュヴィッターズのコラージュ
上右:型枠大工の台風養生 下左:自作絵画 下右:プリコラージュのリペア

つぎはぎを因数にすると、これらの写真が集まってくる。

おそらくこれを見ると、一般的にはコラージュと呼びそうである。

〈以下ウィキペディアより抜粋〉

コラージュとは、フランス語で、糊で貼り付けるという意味から、広く美術・デザインのジャンルで用いられる。あくまで平面的なものを指し、キュビズムの画家が、平面に描くためにスタディとして、ダンボールや紙切れを切り貼りしていたというのが、有名な話である。

コラージュが立体的になると、今度は**アッサンブラージュ**とよぶ。

あまりなじみのない言葉である。

より広義な言葉で、**プリコラージュ**という言葉がある。「身近なものを組み合わせる」つくる」「修理する」「新しく他のもへ転用する」ことなどをさす。プリコラージュは、理論や設計図に基づいて物を作る「**エンジニアリング**」とは対照的なもので、その場で手に入るものを寄せ集め、それらを部品として何が作れるか試行錯誤しながら、最終的に新しい物を作ることである。フランスでは、多くの知識と独創性の秀でた職人がする仕事で、また彼らのことを、プリコルールと呼ぶようだ。

しかし、それが凡人や素人であろうと、誰の行為かはあまり関係なくして、プリコラージュとよぶことも多い。ここで余り細かな定義ではなく、コラージュもアッサンブラージュも含んだ、広義な言葉として用いることにする。

プリコラージュ ≡ オリジナリティ(前項の施工精度との対比関係は成立しない)

■ リペアとジャンクハウス



左上写真の建築は、機能改善を目的に、トタンや防水ペンキという身近な材料を、用いてリペアしている。つまりブリコラージュの中でも、特にリペアの要素が高いものと考えてもよいはずである。これをブリコラージュ+リペアー“**ブリペア**”と名付けることにする。

右上写真は、ジャンク＝廃品、ガラクタでできた、建築の写真である。これをそのまま、**ジャンクハウス**と呼ぶことにする。これらはほぼ、単純明快な目的しか重要視しない、それを達成するための組み合わせには、あまりこだわらない。写真のジャンクハウスは、雨風を凌ぐこと、それ以外に配電設備もあるので、電気も使える「少々便利な居住空間」を用意することを目的としている。

ブリペアとジャンクハウスは、その目的が**実用性**重視とするという点では、ほとんど同レベル上にあると思われるのだが、同一オブジェクト内での「**材料相互間の出会い方**」という点では、違いがある。

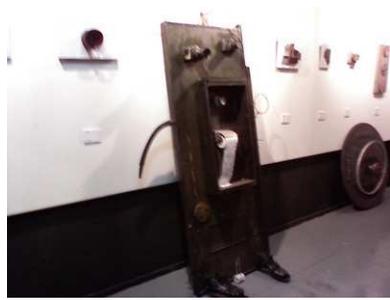
ブリペアは、目的がリペアにあり、余った材料を選択、あるいはホームセンターに購入しに行くこともある。つまり身近で選択し集めるということがいえる。だから、オブジェクト内の材料相互の出会いは、職場恋愛や、友人の企画したコンパと同じように、既に何らかの関係性のある領域での出会いといえる。

一方ジャンクハウスは、見栄えや、多少の不便さにはほとんどこだわらない。とにかく雨風を防ぐための覆い〈貼り合せ材料〉が欲しい！という作り手の強い願望から、「偶発的〈サプライズ〉な出会い」がおこる。つまり組み合わせよりも、その出会いに大きな価値をおく。貴重なハブニング回収に始まり、サプライズ(意外性)な組合せとなる。ジャンクハウスは、**材料の出会い系軸**上では、究極の位置にある。私がこの種のジャンクハウスに、惹かれるのは、まさにこの**ハブニング的出会い**なのだろう。

■ ジャンクハウスとジャンクアート



ジャンクハウス



ジャンクアート(ウチヤマシヒコ)

右上写真の**ジャンクアート**(廃品芸術)は、その名の通り廃品を組み合わせて作品である。作品の生成と存在目的は、あくまで実用性を求めるのではなく、元来、廃品が備えている存在意味を、他者との組み合わせにより新たに再構築し、「**意味の転用**」を図ることであろう。それには、偶発的なものもあれば、とてつもなく緻密なもの、しつこいほど理屈がましいものなど様々ある。ほとんどは非実用的である。言い換えると実用的である必要性が全くないのだ。悪趣味的に捉えられることや、不愉快にさせたり、あるいは作品として認められないものなど、鑑賞者の評価も特に極端に分かれる。

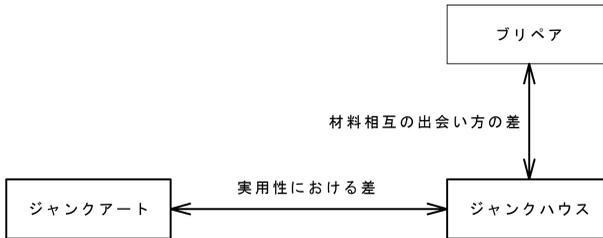
ジャンクアートのおもしろい点は、その作品がブリコラージュにより「意味の転用」を行い鑑賞される際、「作品側から逆に問いかけられる」場合があることであろう。俺はこの作品に試されているのでは？ そんな気持ちにさせられたことはないだろうか。作品という現象・結果に意味を見出せなければ、鑑賞者は、フラストレーションが溜まり不快になる。だからあまり考えずに、直感で鑑賞することも必要だろうし、持ち帰って酒の肴にして、たしなむというのもいいだろう。

特に**意味性**に深くこだわるものは、**コンセプチュアルアート**に近づいていく。その場合、素材の出会い方がジャンクアートとはまた、異なってくる。

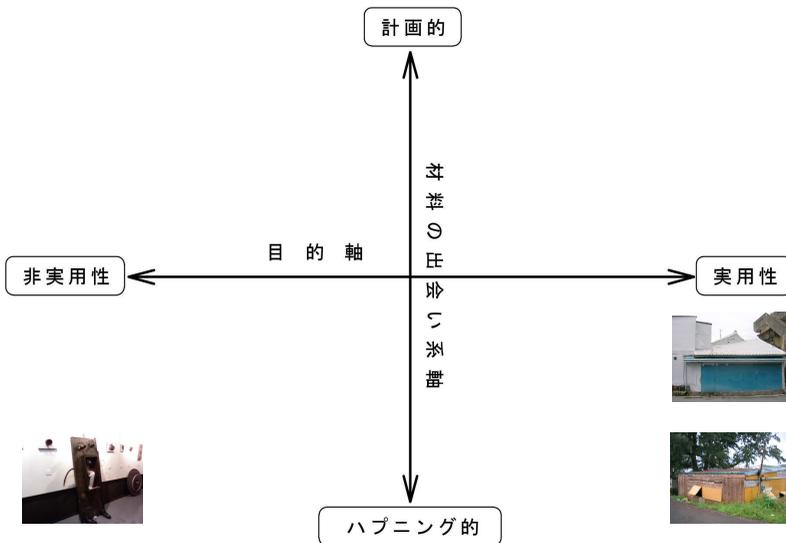
ジャンクハウスとジャンクアートは、ジャンク(廃品)を組み合わせて構成されるという点では一致する。つまり**材料の出会い系軸**上では、同レベルに位置する。だが他方の**目的軸**においては、前者がより高度な実用性の極に向かおうとするのに対し、後者はそれとは逆に、実用性に背を向け、意味性や装飾性などの非実用性の極へ向かおうとするところが、大きな違いではなからうか。

■ マトリックスの設定

ブリベア ↔ ジャンクハウス、ジャンクハウス ↔ ジャンクアートの関係性を示す



これをマトリックスにすると



今回は、きっかけの写真の周囲を探り、マトリックスを設定するところを区切りとしたい。今後、このマトリックスで、ブリコラージュについてさらに考察していきたいのだが、あり合せの時間で、コラーージュ的に更新していくことになるだろう。

ブリコラージュ考-2-へつづく

はたしていつになるのか...